

ビッグマック価格は国際的な価格尺度になりえるか

大阪経済大学 福本 幸男

ビッグマック価格は既存の価格指数にはないいくつかの優れた特長を有していることにより、購買力平価説の検証にしばしば用いられている。しかし、その検証結果が、マクドナルドコーポレーションの価格戦略の影響に左右されるのではないかとの懸念も指摘されている。本稿は、非貿易財価格に影響を及ぼす各国の所得水準の違いをコントロールするかどうかにかかわらず、ビッグマック価格とPenn World Table の価格水準の相関が正であることを見つけた。本稿の検証結果が得られた要因は、各国のビッグマック価格とPenn World Table の価格水準の間の結びつきを強める貿易障壁や為替レート変動による影響がマクドナルドコーポレーションの価格戦略による影響よりも大きかったからかもしれないし、ビッグマック価格に影響を及ぼすマクドナルドの価格戦略とPWT の価格水準に影響を与えるマクドナルド以外の企業の価格戦略によるそれぞれの価格設定がある程度同調していたからかもしれない。いずれの要因であるにせよ、ビッグマック価格が各国の一般的な物価水準から乖離していないと結論付けることが出来る。

キーワード：購買力平価、バラッサ・サミュエルソン効果、貿易障壁、為替レート変動、独占的競争、ビッグマック、マクドナルドコーポレーション

JEL Classification : E31; F41